

◀ 巻末の付録USBメモリに詳細版を収録 ▶

## 第21部

### ネットワークトラフィック統計情報の収集と解析(概要版)

長 健二郎

---

#### 第1章 MAWI WGについて

---

MAWI(Measurement and Analysis on the WIDE Internet)ワーキンググループは、ネットワークデータの収集と解析を研究対象とした活動を行なっている。また、グローバルなインターネットの挙動を把握するために、海外の組織とも積極的に協調して研究活動をしている。

---

#### 第2章 MAWI WG 2013年度の活動概要

---

##### 2.1 ブロードバンドトラフィックの収集と解析

今年も、ブロードバンドトラフィック量は着実に増加してきている。契約数はあまり増えていないので、契約あたりのトラフィックが増えていて、ビデオコンテンツなどによってコンテンツのボリュームが増加していることが伺える。ISP間のトラフィックでは、大手ISP間で交換されるトラフィックの割合が減少してきており、国内外のコンテンツ事業者やCDN事業者の存在感が増している。また、2010年から減少傾向にあったブロードバンドアップロード量も2013年には増加に転じていて、P2Pファイル共有からウェブサービスへの移行が一段落したのではないかと考えられる。

##### 2.2 NECOMAプロジェクトによるデータ収集と解析

別章で報告しているように、2013年6月より始まったNECOMAプロジェクトは「日欧協調によるマルチレイヤ

脅威分析およびサイバー防御の研究開発」に取り組んでいる。そのなかでも、サイバー防御に必要な多様なデータ収集とその統合解析の部分は、MAWIの活動を拡張する形で実施している。

##### 2.3 その他の国際関係

今年度は、MAWI WGとしての国際関係の活動は行なわなかったものの、研究者レベルの交流は継続しており、先述のNECOMAプロジェクトを通じたEUチームとの協調も始まった。

また、2013年6月4日には、在日フランス大使館、日仏工業技術会、慶應義塾大学SFC研究所、WIDEプロジェクトの共催で、「インターネットの未来社会に向けた挑戦」というテーマのワークショップを開催した。フランスより10名を越えるネットワーク関連の研究者を招いて、日本側の研究者と共に、未来の社会に向けたインターネットの技術課題について議論を行なった。

---

#### 第3章 まとめ

---

インターネットの研究において、計測はますます重要視されてきていて、国際協調の機会も増している。そのような状況のなかで、WIDEの計測活動は、グローバルな視点を持った継続的な計測活動として国際的にも認知されてきている。今後は、これまでに築いた関係をベースに、さらに協調の幅を広げると同時に、具体的な成果を出す努力をしていく。